

学校教育目標	よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子
目指す学校像	「安全・安心・信頼」を基盤に、一人ひとりが輝き、思いやりあふれるあたたかい学校
重点目標	1 児童が主体的に学びに向かい、生きる力を育む豊かな教育の実践 2 あたたかな交流を通して、児童の心を育む教育の実践 3 コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 4 施設・設備等への対応及び掲示教育の推進 5 教職員も主体的・対話的に学ぶ体制の強化

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○落ち着いた態度で授業に臨み、課題に対して熱心に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、市平均と比べ、概ね良好な結果である。 <課題> ○間違いや失敗を恐れ、多様な考えや思いなどを表現するなど、決まった答えのない活動に躊躇したり、自信がもてなかったりする傾向がみられる。	・本校オリジナルのカリキュラムストーリーに係る教育の推進 ・「家庭学習」の充実	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、本校オリジナルカリキュラムストーリー「地域の一員としての自覚を高め地域へ目を向け 地域貢献できる人へと成長する」の具現化を図る。 ②「学びの指標」を活用し、客観的なデータに基づき検証する。	①生活科や総合的な学習の時間、その他の教育活動において、地域との関わりを深める教育活動を実践したか。 ②「学びの指標」の1回目と2回目を比較し、数値が向上したか。			
		・「思いやり」の心を育む教育の充実	①今年度より、「家庭学習」の在り方を全校で統一する。 ②学習を実生活に結び付ける等、「家庭学習」を充実させる。	①「家庭学習」の在り方を、全校で統一することができたか。 ②学校評価に、「家庭学習」に係る項目を設け、肯定的回答が8割以上であったか。			
2	<現状> ○明るく素直で、穏やかに接することができる児童が多い。 ○縦割り活動の「ともだちタイム」を実施し、異学年との交流の場を意図的に設定している。 ○SC や SSW と密に連携を図り、児童理解や支援を組織的に進めている。 <課題> ○児童が互いに支え合う体験を通して自己有用感を高め、思いやりの心を醸成する必要がある。	・「障害理解教育(心のバリアフリー)」プログラムの実施	①学級活動や児童会活動等において、相手を思いやる活動を児童主体で実践する。 ②本校のキャラクター「しんとんとん」に魂を吹き込む活動を通して、目指す児童像を児童主体で決める。	①学級活動や児童会活動等において、児童が主体となる取組を、充実して実施することができたか。 ②「しんとんとん」を活用して、児童会を中心に、目指す児童像を児童主体で決めることができたか。			
		・「情報発信」の充実	①全学級で「障害理解教育(心のバリアフリー)」を実施する。 ②実践を踏まえ、カリキュラムのブラッシュアップを図る。	①「障害理解教育(心のバリアフリー)」を、全学級で実施することができたか。 ②実践後に反省を集約し、次年度に向けてカリキュラムのブラッシュアップをすることができたか。			
3	<現状> ○学校運営協議会を母体として、学校、家庭、地域が連携・協働しながら児童を育成することができている。 ○家庭・地域の学校への関心が高く、登下校や学習活動へのボランティアにも協力的である。 <課題> ○学校の様子を発信し、家庭・地域と共に児童の成長を図る体制の一層の充実が求められる。 ○児童が地域との繋がりを実感できる取組を推進することが求められる。	・学校と地域、家庭の「連携・協働」の推進	①学校運営協議会における熟議等において現状を共有し、児童の伸ばしたい力や具体的な取組について協議する。 ②学校運営協議会に児童が参加することを通して、児童の意識や意欲を高める。	①学校運営協議会において、共通理解を図り、目指す方向性を見出すことができたか。 ②児童が主体となった地域貢献活動を実施することができたか。			
		・「施設設備環境」への調整	①学校説明会を開催したり、2学期に学校公開日を設けたりするなど、直接発信する機会を増やす。 ②学校 HP の更新や学校ブログの投稿、学校安心メールの発信等、インターネットを活用した発信を積極的に行う。	①学校評価における、保護者の「学校の活動の広報」に関する質問項目の数値が、前年度と比較して向上したか。 ②学校における発信を、昨年度より充実することができたか。			
4	<現状> ○校庭が広く、体育や休み時間等において伸び伸びと過ごすことができる。 ○校舎については老朽化が見られ、不具合が生じてきている。 <課題> ○リフレッシュ工事が延期となったことを踏まえ、改めて校内の状況を見直し、優先順位をつけて老朽化や不具合への対応が求められる。	・「掲示教育」の充実	①リフレッシュ工事が延期になったことを踏まえ、修繕等の優先順位等を改めて見直し、教育委員会と積極的に連携を図りながら対応を進める。 ②廃棄物の処理を定期的に進める。	①老朽化等への対応について具体的に働きかけ、進めることができたか。 ②廃棄物の処理を進めることができたか。			
		・新たなコーチング研修による指導力の向上	①校内掲示の分担を明確にし、各担当が意図的・計画的に工夫した掲示物を作成する。 ②児童の成果物を掲示することを通して掲示教育の効果を高める。	①季節や学校行事等と関連付けるなどの工夫をし、校内掲示を更新することができたか。 ②児童の成果物の掲示を、昨年度より充実することができたか。			
5	<現状> ○教員のキャリアとして、若手・中堅・ベテランのバランスがとれている。 ○担任外の教員を各学年の副担任として割り当て、チームで取り組む体制をとっている。 ○3年計画で取り組む学校課題研究の最終年度となった。 <課題> ○「働き方改革」の一層の推進が求められている。 ○新学習指導要領を実現する「令和の日本型教育」の一層の推進が求められている。	・「働き方改革マスタープラン」に基づく多働き方改革の推進	①日本 PCIT 研修センターの御協力をいただき、TCIT 研修を新規導入する。 ②TCIT 研修におけるライブコーチングを共有し、全教員の児童への対応のスキルアップを図る。	①TCIT 研修を導入し、全工程を実施することができたか。 ②学校評価における、教職員の「研修」に関する質問項目の数値が、前年度と比較して向上したか。			
		・「働き方改革」の一層の推進が求められている。	①今年度より策定された「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」を教職員に周知する ②「学校DX推進委員会」を軸とし、「教え方」「学び方」「働き方」改革を進める。	①さいたま市の方針について、教職員に周知することができたか。 ②さいたま市の掲げる「時間外在校等時間に関する目標」と「ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標」を達成することができたか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

